



【今週の暗唱聖句】ルカ6:12-16

イエスは祈るために山に行き、 神に祈りながら夜を明かされた。

- 12弟子を選ぶためにイエスが祈られた、ということはどういう意味であろうか。主イエスがヨハ15:16で「わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。」と仰ったことからすれば、誰を弟子とするか御自分で主体的に考え、決められたことが分る。しかしその決定のプロセスで父なる神と語られ、最終的に「あなたのしようとすることを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画はゆるがない。」と箴言16:3にあるように、ご自身の決断を神に委ねられたのである。
- ここに私たちの日々の生活での物事の決定方法についてのヒントもある。天に向けて口をぽかんと開け、答えが天から降ってくるのを待っているようなことを神は望まれているわけではない。与えられた創造性を発揮し、御言葉を参照しつつ、積極的に考え、知恵を用いて判断し、「したいこと」を御前に持ってくることを願われるのである。
- 会社で部下が上司に計画書を持っていき、詰問され、考え直すべき点を指摘され、机と上司との間を何回か往復した後、最終的には「判」を押してもらおうように、私たちも神の御前で祈りの格闘をすることが求められている。どんな場合でも、十分に祈り、神からの確証を頂いて進んで行きたいものである。

【聖霊について(1)】「クリスチャンは歩く神社」

- 初詣。人々は神に会いに行き、願いを聴いてもらうために神社仏閣に出向きます。しかしクリスチャンはどこにも行く必要がありません。なぜなら、クリスチャンは「神の神殿」(Iコリ3:16)であり、神の御霊が宿っている「聖霊の宮」(Iコリ6:19)だからなのです。クリスチャンは正に歩く神社なのです。
- これは全て、罪を悔改め、イエスの御名に信頼し、イエスを主と告白して歩む人々に実現している事実です。今までそのことを意識したことがなかったかも知れませんが、そういう「感じ」がしないかも知れませんが、パウロは御霊が内に住んでおられることをことさらに意識するように私たちを諭しています。私たちの態度如何によって聖霊は「悲しまれ」(エペ4:30)もするし、御霊の働きを「消す」(Iテサ5:19)こともできてしまうからなのです。御霊に喜んで住んでいただけるよう、境内の掃除はキチンとしたいですね。■

イエスと弟子たち

弟子たちを訓練しつつ、十字架に向かって歩まれたイエスの愛を知る。
教育というのは、教えることのみならず育てることが大事である。イエスの訓練は、ただ聖書を教えたのではない。愛をもって弟子たちを育てるものであった。個人として人格的に成長させるというのではなく、教会を建て上げていく者として、一人一人の魂をはぐくんだのである。選び・使命・信仰・自己犠牲・聖化・謙遜・失敗の処理などは、イエスの弟子となるための必須の学びである。

- 2/7 一二使徒を選ぶ ルカ6:12-16
- 2/14 弟子を派遣する マタイ9:35-10:23
- 2/21 ペテロの信仰告白 & しかられたペテロ マタイ16:13-26
- 2/28 ゲストメッセンジャー Arthur Robertson 牧師
- 3/7 イエスの変貌 マタイ17:1-13
- 3/14 弟子の足を洗う ヨハネ13:1-20
- 3/21 主を知らないと言ったペテロ ルカ22:31-34、39-62
- 3/28 マリヤを託されたヨハネ ヨハネ19:17-30

【先週のメッセージより】★サドカイ派、パリサイ派の問題…

右にも左にもそれず 申命記5:1-21, 32-33, 6:1-9

●1月かけて聖書を生活の中心に据えることの大切さを学んだが、その最後として、まっすぐ歩むことの大切さを見た。申命記にも黙示録にも神の教えにつけ加えても取り除いてもいけないと命じられている。しかし人間の罪深い性質と密接に関係しているため、そのどちらも残念ながら起きやすく、イエスの時代から現代に至るまで教会は右に揺れ、左に揺れてきた。

●**当時の左/サドカイ派の問題点…「引き算」…自分の都合で信じたくない、従いたくない御言葉を取り除いていた。**

●**当時の右/パリサイ派の問題点…「たし算」…御言葉に勝手な教えをつけ加えて、御言葉の精神に背いてしまっていた。**

●**右にも左にもそれないために…**私たちはどうしたら良いのだろうか。それは何よりも、御言葉の意味が理解できるよう御霊に（御霊の照明が与えられるよう）常に抛り頼みつつ、御言葉に本当に親しみ、共に学び続け、御言葉を実行する人になることである。こうして右左のズレが分るようになることが大切である。最後に、主が戻られるまで、主の約束を手放さないでいることである。■